

## 会員だより

### 慶良間諸島が国立公園に!

この度、慶良間諸島が31番目の国立公園に指定されました。ひとえに関係者の皆様方や地元の方々の熱意と努力のおかげだと思ひます、おめでとうございます。

弊社も、今までに島内の道路整備や浮き桟橋の工事を行い、環境に十二分に配慮し完成させることが出来ました。

沖縄県在住の方でも慶良間諸島へ行った事のある方は少ないのではないのでしょうか、船で約1時間程で行くことが出来ます。

冬はクジラがやって来て間近で潮吹きやブリーチングジャンプ(これは見ごたえがあります)、イルカの群れが船と競争したりします。

夏はダイビングで、世界一の透明度と言われる海の中を魚や亀に囲まれて竜宮城に居るかのよう泳ぎ、コブシメイカの産卵に感動、運が良ければマンタにも遭遇したりして大いに満喫する事が出来ます。

## 琉球開発株式会社 代表取締役 宮城 久雄



ザトウクジラの豪快なジャンプ!

座間味島の港湾

この美しい海を観光客だけではなく、地元沖縄県の方々にも、もっともっと知っていただきたいと思ひます。この機会にぜひ慶良間諸島へ!

【総務部長 永吉 敦】

## 会員だより

### 女性技術員 奮闘中!

沖縄総合事務局開発建設部発注の平成 24 年度西崎地区地盤改良工事を、現場で奮起・奮闘し、頑張っている入社 1 年目の女性技術者: 宮里直扇を紹介します。

本工事は周辺の建物や供用中の道路に与える影響を考慮し、変位低減型深層混合処理工法(CDM-LODIC 工法)による地盤改良工事を新開発の施工管理システムにより信頼性の高い施工を行っています。現在、供用中の道路を一次、二次と切回しを行い地盤改良を施工中です。

地盤改良工事で、目に見えない地中部を大型の特殊な機械を用いて施工する様は、スケールが大きく見ているだけでもワクワクします。

また、初めての道路測量、丁張掛け、土工事の管理や舗装を経験しました。新しい切回し道路に一般車両を誘導し、皆様の車がスムーズに通行するのを見て、「私の造った道路を、みなさんに利用して頂いている。」と凄く感動しました。

現場では大変なこともたくさんありますが、楽しいと感じることもその分多く、とてもやりがいのある仕事だと思います。女性技術者の少ない中、これからも先輩の皆様のご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

【現場技術員 宮里直扇】

## 株式会社 大城組 専務取締役 石嶺 傳壯



新人ですが頑張ってます!



西崎地区地盤改良工事の現場

## 活動報告・トピックス



### ①第91回 道路美化・清掃活動

#### 小春日和?いや夏だ!

3月18日(火)に、14社、16名の参加を得て第91回道路美化清掃活動を行いました。

当日は、気温がどんどん上がって汗ばむほどの陽気となりました。清掃箇所近くの、奥武山セラー球場は、読売ジャイアンツのキャンプの打ち上げもあり、先週の賑わいが嘘のように閑散としていました。



今日は暑かったが、いい汗だった!



### 外国人労働者の拡大

3月26日に外国人労働の実質的受け入れ拡大に向け、政府・自民党が提言をまとめたとのニュースがありました。現在の外国人向けの技能実習制度を拡充し、最長3年間の受け入れ期間を2年延ばして5年に延長するほか、受け入れ人数をピーク時には、現状の2倍の3万人規模にするとしています。全産業を対象にした制度見直しと別枠で特例対応として2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、建設現場の深刻な労働力不足が予想されることから、一時的な建設需要に対応するため、即戦力としての活用がどうしても必要であると提言しています。その上で、国内の人材確保が最優先で、外国人材拡大は東京五輪までの限定的・緊急的措置であり、原則元に戻すとしています。

その日開かれた、全国建設労働組合連合の集会では「人手不足は、外国人に一時的に頼るのではなく、若い人が建設業に就職するような対策をとることが大切だ」と訴えました。

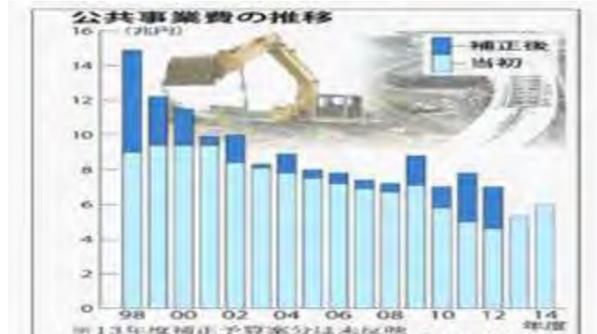
公共事業費は1998年をピークに右肩下がり減少を続けており安倍政権に替わってようやく2010年の水準になっただけです。(図-1)この間、3k職場と言われ賃金水準も下がり続けたため、技術者の流失が続ぎ、若年者の就業者が減って業界全体の人手不足と高齢化が進んでいます。防災対策、

## 今月の予定

- ①第92回 道路美化・清掃活動  
前半グループ 4月15日(火)10:00~
- ②第1回幹事会 支部会議室  
4月24日(木)12:00~13:00

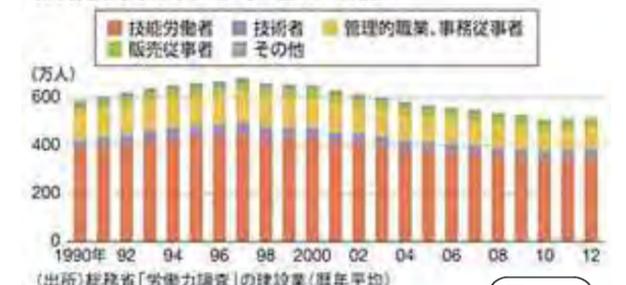
インフラ老朽化対策等の公共事業の必要性については、多くの国民の理解を得ていると思ひますが、このままでは人材が枯渇し業界全体が衰退してしまいます。国土交通省は、今年1月、公共工事の設計労単価(全国)を前倒して2月から全国平均で7.1(県内:6.5%)引き上げることを決定しました。背景には、人手不足が深刻で入札不調が相次いでいることがあります。(図-2)

一時的に、外国人労働者を増やしたり、賃金上げるだけでは抜本的解決にはなりません。十数年来の建設不況から脱却するためには、「きちんと食べていける職業だと認識してもらう必要がある」というのが業界の共通した認識でしょう。それに技能の継承が5年で出来るのか、不安が残るところです。



(資料) 毎日新聞2013.12.25 図-1

### 技能労働者を中心に減少



(出所) 総務省「労働力調査」の建設業(暦年平均) 図-2

## 編集室から N・S

四月から新年度で、いろいろな節目があり身の周りが慌ただしくなっています。四月には不思議な高揚感があります。人事異動や、入学式、入社式など人生の新しいスタート台に立つ人も多いと思ひます。新しい環境で、新たな出会いに胸はずませることも、また、不安を感じることもあるでしょう。それぞれの思いを胸に新年度が始まりました。